

# こうべ環境未来館の エコスクールを支援

2008年12月13日、今年度第11回エコスクールが開催され、環境部会からもサポート隊を派遣。集まった60人の親子にクリスマスリースやツルのかごづくり、木の実工作、草木染を楽しんでもらった。同時に自然からのいろいろな贈りものに接する中から自然環境の大切さを学んでもらった。



子どもたちの豊かな発想からおもしろい木の実工作も誕生する。手伝うこちらもつい真剣に…



リースづくりは毎回人気の工作



木の実アイデア工作、クリスマスリース、つるのかご……思い思いの自慢のお土産ができました。

## こんな活動やっています

ホタルの飼育活動を介して、ある小学生児童たちとのつながりの紹介が寄せられました。

### 神戸ホタルの会

#### 回想記「まぼろしのファイヤーフライ計画」

小学4年生児童達の挑戦

神戸ホタルの会 松尾 恭治

「しあわせの村にホタルを飛ばそう！」とチャレンジを続けている。そうした活動の中で、ある小学校の子供達と連携をした内容をまとめてみました。

子供たちの挑戦を、私たちの励みにして、今も活動を続けています。子供達とのやり取りを紹介します。

私たちが「しあわせの村の日本庭園」に幼虫の放流をしようと準備し始めた頃、あの小4児童達から手紙が来た。それには幼虫を何匹かわけてほしいと書かれている。要望に応じて、古田氏の幼虫を10匹と私の幼虫1匹を持参して待ち受けている子供達に渡した。

彼等は廊下に置いた飼育水槽に入れて、全員で育て、冬中観察した。幼虫も水の中で光ると言われているので、それを見ようと毎晩見に行ったらしい。

しかし全く光を見ないまま遂に、2月の発表の日が来

てしまった。講堂の壇上に4年生のチーム代表の子等と共に、我がホタルの会から古田、中橋、松尾の3名がゲストとして顔を並べた。

そこで今までの経過が報告され、未だ光を見ることが出来ていないことも発表された。そしてどうすれば光を見ることが出来るかについて、我々に意見が求められた。それで私たちも幼虫の光は見たことがないが、棒でつつくなど刺激してみたら光るかも……という意見を述べたところそうすることになり、その後も飼育が続けられた。

3月になって進級の時期が近づいた。このプロジェクトを終結させるに当たり彼等が話し合った結果、幼虫を元の川に返して自然のままに上陸させ、6月の飛翔を待つことになったらしい。

3月末になって担任の先生から丁寧なお礼状をいただいた。お礼の言葉と共に子供達は初期の目的は達成出来なかったものの、きっと何かをつかんだことであろうと書かれていた。そして子供達からたくさんの手紙が来た。みんな子供達の夢を託したホタルの絵が描かれていた。その何枚かをお見せしよう。この子供達の情熱的な活動を思い出すとき、胸が熱くなって泣けてくるのは私一人だけだろうか。

